

# 視 察 ・ 研 修 等 報 告 書

令和4年10月11日

期間（期日）	令和4年10月4日（火） 9:30～11:30
視 察 先	ローカル・マニフェスト推進連盟 主催
視 察 内 容	「ローカル・マニフェストで東北から日本が変わる」
ま た は 研 修 事 項	於：陸前高田市コミュニティホール
参 加 者	梅木 忍、三宅 靖、平野 明紀

## [内容及び所感]

<b>【内容】</b>
<b>1. 基調講演：「マニフェスト 20年 ローカル・マニフェストで地域から日本が変わる」</b>
早稲田大学名誉教授・元三重県知事 北川 正恭氏
・ローカルマニフェストとは、国の政治のパーティマニフェストに対する地方用の呼称。
・選挙の際の従来の「公約」はあまり信頼されていないので、公約を文字と数字にして検証できるようにしたものが「マニフェスト」。
・この様な事例発表などを通じて、それぞれの地方議会には「善政競争」に励んでもらいたい。TTP（徹底的にパクリ）によって、良いと思った他議会を真似して取り組んで欲しい。
・議会事務局と議員が一体となって当局に対抗していく必要がある。墨田区議会で議会基本条例に、議員から事務局に提案できる旨が盛り込まれている。
・IoT時代に、地方自治体が全ての行政サービスを担うのは無理であり、今後は、前例にとらわれずに新しい仕組みを提案していく事が必要。議会から当局へ「要望」するのではなく、「提案」して言って欲しい。
<b>2. 問題提起：「住民自治としての議会」</b>
～ローカルマニフェスト運動20年と次の一手を考える
大正大学社会共生学部教授 江藤 俊昭 氏
・決算審議が大事。決算をしっかり審議してこそ、次の提言が生まれる。
・決算審議に当たって、議案が出てから審議するのではなく、委員会で事前に論点を抽出しておく事なども必要ではないのか。委員会では、日常的に所管事務調査を行える体制を構築しておかなければならない。
・住民を巻き込んだ議論をしていく。フォーラムとしての議会の役割を果たし、従来の議会のイメージを変えていかなければならない。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来の質問の場としての議会から、地域課題への中長期的な取組みへの提言をしていく議会へと変えていく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「議案審査」のやり方についての見直しが必要。単に議案に対する質疑だけで終わっていないか。議案に対して、委員会毎に事前調査して、議員間討議をしていく事が大事。修正議案、付帯意見、要望的意見（会津若松市）、などを付けていく。また、一般質問から、課題抽出して委員会で所管事務調査をするなど、発展させていく事も必要。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・討論は1回のみではなく複数回しても良いのではないのか。形式だけの討論では意味がない。討論のやり方も見直してはどうか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会代表質問なども実施している議会もある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・議会報告会で住民に変え方の提示に努める必要がある。年47回の報告会を実施している議会もある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本会議における「議決の重要性」をもっと認識すべき。採決の前日は、眠れなくなる事はないのか。採決後に、その選択に後悔した事はないのか。当局は「提案」するだけで、「議決」は議会が行う事であり、責任が生じる。採択・不採択の判断理由を説明できなければならない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政の縦割りを超える力が議会にはある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「住民自治の根幹は議会」「地域経営に必要な権限は議会が全て持っている」事を議会は自覚しているか、確認が必要である。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民自治の土台は「多様性」である。公開の場の討議によって論点が明確になり世論を作り出すことになる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初から賛成とか反対とかありえない。政策には必ずメリット・デメリットがあり100%はない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・与党・野党が地方議会にあるわけがない。国政とは違う制度設計になっていることを認識すべきである。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・形式的な改革から、実質的な改革に向かっているか？ →議会からの政策形成サイクルは回っているのか。議会として監視機能を発揮して政策提言をしていくのは必要な事。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・討論空間と決定することの重要性をもっと認識すべきである。良い経営が出来ているか？</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「経営品質」も評価すべきである。行政もそうだが、議会も同じである。</li> </ul>
<p><b>3. 議会改革の実践：「会津若松市議会における地方議会成熟度評価モデルの取り組み」</b></p>
<p style="text-align: right;">会津若松市議会議員 目黒 章三郎 氏</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・首長が広げた風呂敷には、穴が開いていたり皺が寄っていたりするが、それを修正して</li> </ul>

いくのが議会の役割。
・議員間討議は、論点を立てて議論を重ね、合意形成を図る。
・「地方議会成熟度評価」の実装として、自分の議会をどう評価するか。3段階評価でどこに入るのか、やってみてほしい。
・政策サイクルを回す中で、議会力による政策への影響力は大きい。実践例として、①財政調整基金の増額、②鶴ヶ城周辺の公共施設の再編計画見直し、③湊地区上水道整備、④公共施設管理課の設置、⑤公共施設維持整備等基金の創設など。
・議会報告会を市内15地区で実施し、出された意見は、中身によって常任委員会に振り分け、市民意見を起点とした政策への取り組みにつなげている。予算決算委員会の決算にかかる評価、予算審査と合わせた政策サイクルを構築。コロナ禍で議会報告会を中止していたが、再開した事により市民から歓迎された。市長のタウンミーティングだけでは市民の声を反映しきれないのが理由のようだ。
・議員間討議は、質疑と討論の間に行う。論点を明らかにし、合意形成を図る。
・予算決算審査にかかる決議、意見では、決議のほか、要望的意見が多く出されている。合意形成にいたる段階での議員間討議で明らかになった課題を、決議、意見に盛り込む。
・市民との意見交換会で出された意見を基に、常任委員会で調査・検討を行い、政策討論会で合意形成にいたったものを政策提言として提出している。
<b>4. 議会改革の実践：「奥州市議会における議会改革の実践」</b>
奥州市議会 議長 菅原 由和 氏
・決算の認定に当たって、付帯決議を政策提言として行った、
・情報のバタフライ効果(非常に小さな出来事が、最終的に予想もしていなかったような大きな出来事につながる)を狙って、2017年に議会の情報戦略を展開したことが議会改革のきっかけ。
・情報戦略の背景として、県内のオンブズマンによる議会の情報公開のランクが下から3番目だったので、ショックを受けた事も議会改革をするきっかけとなった。
・コロナ禍で市民との意見交換が出来ず、グーグルフォームを使用したアンケートを実施して、市民の声を吸い上げた。
・LINE WORKS の活用で議員間の連絡や災害時の安否確認も容易になった。
・「政策決議提案」を議員発議で決議をして重みを持たせた、
<b>5. 登壇者パネルトーク</b>
・(北川氏)三重県知事時代に、議会が強くなれば県が良くなるという事で、執行部の改革は議会改革もしなければできないし、自治労(組合)の改革も必要と考えた。その為、県議会のボスとサシで話をして、議会改革に取り組んでもらった。また、知事部局から

議会事務局に企画部長などエース5人を異動させ、退路を断って、知事の言う事を聞くなど言い、議会改革を補助した。更に、当局側の答弁として「善処します」「前向きに検討します」は禁句にした。

・(可児市議会 川上氏) 元議長で、現在議選監査委員をしているが、決算審議の際には、議選監査委員が、監査報告を議場で行い、それに対する質疑も実施している。これによって議事録に残るようにした。監査委員になってみて感じた事は、監査委員の方が議員より見える範囲が広がるが、グレーの部分が想像以上に多い事に驚いた。現在、雑収入について1,400頁位ある資料のチェックを実施している。

・(日本生産性本部 野沢氏)「政策サイクル推進地方議員フォーラム」を令和4年7月に立ち上げた。これは政策サイクルの明確化と、評価モデルを研究する為の組織であり、多くの議会の参加を希望。また、評価ガイドブックを製作しているので活用して欲しい。



#### 【所感】

・決算審議の重要性は以前から認識していたが、今回の話を聞いてそれを予算へどの様に反映させていくかの手法の確立が必要と感じた。議会改革推進会議では、会津若松市議会の先進事例を参考として検討しているようであり、その成果に期待する。

・奥州市議会が、議会改革度ランキングで総合3位となったが、当市議会とあまり変わった事をしていないのに、何故かと思っていたが、今回の説明を規定少し納得した。様々な面において、少し先まで進んでいる。例えば、政策提言にしても、議員発議として上程し、それを議決する事で強制力を持たせる点などは、よく考えて実施している。また、グーグルフォームやLINE WORKSの活用など、IT面でも進んでおり、当市議会も負けていけないと思った。